

2023 年度の電気刺激チームの活動に関して

医療法人 誠和会 倉敷記念病院リハビリテーション部

理学療法士 坂本祐貴，黒住貴史，藤岡莉子

作業療法士 唐川佳明

言語聴覚士 糸山克哉，伊達咲乃

【はじめに】

電気刺激チームは，電気刺激療法に関してリハビリテーションセンター内で推奨し，患者個々人の治療効果を最大限に上げることを目標とし立ち上げた．今回，2023 年度の活動内容と実績を報告する．

【電気刺激チーム活動報告】

1. 活動メンバー

6 名（2023 年 1 月現在）

2. 活動内容

(1)講義・新人教育

電気刺激装置（オージー技研株式会社，アイビス）や高頻度反復末梢神経磁気刺激装置（酒井医療株式会社，パスリーダー）の使用方法について新入職員へ指導を行った．

(2)高頻度反復末梢神経磁気刺激(以下，rPMS)のデータ蓄積

3. 研究内容

(1)肩関節亜脱臼患者における rPMS の治療効果

(2)運動負荷量の制限がある呼吸器・循環器疾患を有する患者に対する筋力強化の治療効果

【今後の展望】

rPMS に関して，2022 年度より従来使用していたコイル TC-1 に加え，狭い範囲に集中した磁気刺激を行えるコイル UC-1 を導入している．これにより上下肢の筋のみならず，舌骨上筋群などの小さな筋に対しても治療可能となった．舌骨上筋群に対する電気刺激療法は 2000 年代から摂食嚥下障害に対して行われているが，高齢者では皺や皮膚のたるみのために電極貼付は決して容易ではなく，男性では髭剃りを要することが多く準備に要する時間が長かった．Ogawa らは，rPMS 使用 6 週間後には誤嚥性肺炎後の廃用症候群患者では舌骨上筋筋力の改善を認めたと報告している¹⁾²⁾．今後は磁気刺激装置のさらなる理解

を深め，チーム外にも知識や治療効果を周知していく必要があると考える．加えて研究のデータ蓄積についても進めていき，外部への発表を行っていく．

【参考文献】

- 1) 出江紳一：高頻度反復末梢神経磁気刺激装置の開発と臨床応用．リハビリテーション医学 2020；57：431－438
- 2) 加賀谷 斎：末梢磁気刺激とその臨床応用．リハビリテーション医学 2022；59：68－73